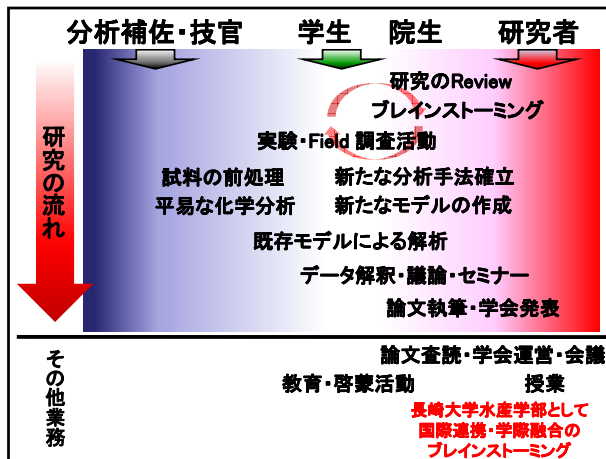


長崎大における文献検索と文献整理の方法例



物質循環セミナー 4月20日(月)



過去の研究のレビューと、最新の研究のフォローが出来ていない“調査・研究”は、“趣味”でしかない。



なぜ？

- ✓ 論文発表、学会発表が出来ない。
- ✓ 分析手法や調査内容の検討が適切にできず、無駄が生じる。

Outline

1. 書籍や論文の検索について
 - 長崎大学学内の書籍検索(OPAC)
 - 日本国内の研究機関の横断検索(Web cat)
 - 英文論文の検索(Scopus)
 - 邦文論文の検索(CiNii)
 - 職・研究者情報・研究成果の検索(GeNii)
 - ISI Journal Citation (データベースから)
 - Science Direct
2. 論文のPDF等の取得
3. 文献の整理について(Endnote)
4. 物質循環研究室でのルール

Scopus活用のポイント

1. 英文論文の検索
他では、Web of Knowledgeや、Google Scholar
2. 英文論文情報の外部出力
WKIには劣るが、Google Scholarにない機能
3. Alert機能で自動お知らせ
指定したキーワードの新しい論文が出た時
指定した論文が引用された時

論文のコピーやPDFを取得

1. ScopusやCiNiiで直接にPDFにリンク
2. 長崎大学電子ジャーナルリンク集やScience Directからアクセス
3. Google Scholarにて検索
4. (物質循環研究室の共有PCから探す)
5. 図書館等で借り出してコピー&PDF化
6. 教官に、文献複写依頼

Endnote活用のポイント

1. 論文情報の管理
Web of Knowledge、Scopus、CiNiiからの自動取り込み
2. 名前、キーワードから検索
3. 要旨などのメモを日本語で入力できる
4. 論文作成時に、参考文献の出力
5. PDFファイルなどへの一発アクセス

物質循環研究室での文献管理案

(これは、運用しながら改訂しましょう)

1. 学生部屋の共有PCでEndnote管理
2. データにないPDFを入手したら、「新規PDFフォルダ」に保存し、Endnoteにも文献情報ファイルを作成しておく。
3. 梅澤が、親ファイル(EN8W_1, Ariake, East China Sea)にアップデートする。